

平成 22 年 4 月 20 日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2006～2009  
 課題番号：18520433  
 研究課題名（和文） 英語学術論文作成のための自律学習支援システムの構築  
 - ESP 語彙リストに基づいて -  
 研究課題名（英文） Constructing Autonomous-Learning Support Systems for English Academic Writing: An ESP Vocabulary Perspective  
 研究代表者  
 田地野 彰（TAJINO AKIRA）  
 京都大学・高等教育研究開発推進センター・教授  
 研究者番号：80289264

研究成果の概要（和文）：本研究では、英語学術論文作成技能の育成を目的として、各専門分野の主要な英語学術誌から学術論文コーパスを作成し、各種学術語彙リストとそれら学術語彙習得のための自律学習支援システムを開発した。また、論文コーパスを用いたイントロダクションにおける議論の展開パターンの分析とタイトル分析を専門分野ごとに行った。展開パターンの割合、タイトルの語数や語彙タイプ、構造パターンが分野ごとに異なることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：In this research project a database of approximately four million words was compiled from a selection of 600 research papers in six disciplines, and four types of academic word lists (EGAP, ESAP, EGAP-A, and EGAP-S) were developed. In addition, a genre analysis of the introductions, as well as the titles, of research papers was conducted to prepare a resource for academic-writing teaching materials. Based on this, an autonomous vocabulary-learning support system model was constructed.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	1,100,000	0	1,100,000
2007 年度	900,000	270,000	1,170,000
2008 年度	600,000	180,000	780,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	3,300,000	660,000	3,960,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：英語教育, ESP, 語彙, アカデミックライティング, EAP

## 1. 研究開始当初の背景

日本の外国語教育に関する代表的な政策である「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」（文部科学省, 2003）にも見受けられるように、いま大学の英語教育のあり方

そのものが問われている。また、「英語指導方法等改善の推進に関する懇談会（報告）」（文部科学省, 2001）では、各専門分野の教育研究に必要な英語力を身につけさせることを大学での英語教育目的の一つとすること

が提案され、専門教育と有機的関連性をもった英語教育を目指さなければならなくなっており、まさに ESP の発想とアプローチが問われているのである。

本研究では、大学英語教育を、単に中学・高校の英語教育の延長線上の終着点としてではなく、学部（大学院）専門教育への出発点として捉え、ESP(English for Specific Purposes: 「特定目的の英語」)を、Jordan (1997)が主張するように、EOP (English for Occupational Purposes: 「職業目的の英語」)と EAP (English for Academic Purposes: 「学術目的の英語」)とに分類し、さらに EAP を、EGAP (English for General Academic Purposes: 「一般学術目的の英語」)と ESAP (English for Specific Academic Purposes: 「特定学術目的の英語」)として区別することとする。この区別を日本の大学教育環境に適用し、全ての専門分野に繋がる基礎教育・教養教育としての位置づけられる全学共通教育科目としての英語の目的を EGAP、専門教育科目としての英語の目的を ESAP と規定する。

このように本研究の学術的な特色は、研究教育機関としての大学の英語教育目的を、ESP、とりわけEAPとして明確に位置づけ、中学・高校の『学習指導要領（外国語）』に規定されている異文化理解や実践的コミュニケーション能力育成等のEGP（一般目的の英語）とは区別し、その概念を、自律学習支援システムとして実現するという点にある。

ESPのアプローチを全学的に導入している大学はいまだ日本国内において皆無であるという事実を考慮すると、本研究は日本の大学英語教育の今後の方向性と可能性を考える上で大きな意義があると思われる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、英語学術論文作成能力の育成に向けて、ESP（「特定目的の英語」）の研究成果に基づきながら、各専門分野における主要な英語学術雑誌から学術論文コーパスの構築と学術語彙・専門語彙等の ESP 語彙リストの開発を行うとともに、論文のアブストラクトやイントロダクション部分を使用して、論文中の EGAP 語彙リストに掲載されている語彙を自律的に学習するためのソフトウェアのシステム設計、ならびにプロトタイプシステムを構築することである。

## 3. 研究の方法

研究の方法については、以下のとおりである。

- (1) 総合研究大学である京都大学の各専門分野の研究者の協力を得て、学術論文コーパスを構築する。
- (2) 同論文コーパスから学術語彙データベースを開発する。
- (3) 同学術語彙データベースから各種 ESP 語

彙リスト（「EGAP 語彙リスト」「EGAP-A 語彙リスト」「EGAP-S 語彙リスト」）を開発する。  
(4) 同時に、同論文コーパスを使用して、ジャンル分析（とくに論文のタイトル分析とイントロダクションを対象としたムーブ分析）を行う。

(5) 論文のアブストラクトやイントロダクション部分を使用して、論文中の EGAP 語彙リストに掲載されている語彙を自律的に学習するためのソフトウェアのシステム設計、ならびにプロトタイプシステムを構築する。

## 4. 研究成果

本研究では、年度ごとに、以下のような成果を得た。

(1) 平成 18 年度の研究では、主として、学術目的の英語（EAP）や語彙教育、アカデミックライティングの研究・実践活動に関する学術文献の収集、および各専門分野における学術雑誌・学術論文の選出など、EAP 学術論文コーパスの構築に向けたデータベースの作成に重点を置いた。当年度の実績は以下の通りである。

学術語彙、とりわけ特定の専門分野に関係なく学術論文において共通して高頻度で出現する一般学術語彙の大学英語カリキュラムにおける役割と教育的意義が明らかになった。また、アカデミックライティング教育への一般学術語彙（EGAP 語彙）の提示・指導の応用方法について具体的かつ有益な示唆を得た。

学術論文コーパスの構築に向けたデータ収集・分析についての研究手法ならびにアカデミックライティング指導にむけた一般学術語彙の応用方法に関して有益な示唆を得た。

(2) 平成 19 年度の研究では、各専門分野の主要な英語学術雑誌から学術論文を選定し、学術論文コーパスの構築と学術語彙データベースの開発に重点を置いた。当年度の実績は以下のとおりである。

各専門分野の英語学術論文に基づき学術論文コーパスの構築・検証を行った。

当該論文コーパスから、社会学、教育学、経済学、医学、薬学、工学の六つの専門分野の学術論文に特徴的に高頻度・広範囲で使用される語彙のデータベースを開発し、各分野の ESAP 語彙リストを開発した。

さらに、当該データベースを活用して、特定の専門分野に関係なく学術論文に共通して高頻度且つ広範囲で使用される語彙を選出し、コンコーダンサーを使って EGAP 語彙リストの開発を行った。

(3) 平成 20 年度の研究では、これまでに開発した「学術論文コーパス」および「各種学術

語彙データベース」を活用しながら、英語学術論文指導に向けた自律学習支援システムの開発に向けて、社会学・教育学・経済学・医学・薬学・工学関係の六つの専門分野での英語学術論文のサブジャンル とりわけ論文タイトルとイントロダクションの内容や情報の提示方法の分析・検証に重点を置いた。

専門分野に関係なく学術論文に高頻度かつ広範囲に使用される EGAP 語彙リストの開発・評価を行った。

同リスト掲載語の意味情報の提示（一般的な意味と専門的意味）を行った。

専門分野別論文タイトルの構造分析を行った。

イントロダクションを対象とした専門分野別ムーブ・パターンを比較・検討した。

各ムーブの特徴についての調査・研究を行った。

なお、EGAP 語彙リスト掲載語の意味表示、学術論文のタイトル分析およびイントロダクションにおけるムーブ分析については、専門分野間の類似性と相違性を明示するとともに、学術論文作成についての教育的示唆を提供した。

(4) 平成 21 年度の研究は、これまでに構築した「学術論文コーパス」及び「各種 ESP 語彙データベース」を活用しながら、平成 20 年度に行った英語学術論文におけるムーブ分析などの言語学的分析の知見に基づき、英語学術論文作成のための自律学習支援システムの設計を行った。具体的には、論文のアブストラクトやイントロダクション部分を使用して、論文中の EGAP 語彙リストに掲載されている語彙を自律的に学習するためのソフトウェアのシステム設計、ならびにプロトタイプシステムの構築を行った。

本研究で構築した自律学習システムは、英語論文の特定箇所を問題として指定することで、英語論文執筆の際に重要となる語彙の学習に向けた問題を自動的に作成することができる。なお、最終年度では、科学研究費補助金成果報告書（『英語学術論文作成のための自律学習支援システムの構築 - ESP 語彙リストに基づいて - 』、2010 年 3 月）を作成し、本研究の成果について報告している。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

#### 〔雑誌論文〕(計 3 件)

田地野 彰, 寺内 一, 金丸 敏幸, マスワナ 紗矢子, 山田 浩, 「英語学術論文執筆のための教材開発に向けて 論文コーパスの構築と応用」『京都大学高等教育研究』14号, pp. 111-121, 2008年, 査読無.

田地野 彰, 「理系学生に必要な語彙とは 学術語彙データベースに基づいて」, 『英語教育』第57巻, 第3号, pp. 16-19, 2008年, 査読無.

田地野 彰, 寺内 一, 笹尾 洋介, マスワナ 紗矢子, 「総合研究大学における英語学術語彙リスト開発の意義 EAPカリキュラムデザインの観点から」, 『京都大学高等教育研究』第13号, pp. 121-131, 2007年, 査読無.

#### 〔学会発表〕(計 7 件)

田地野 彰, 寺内 一, 金丸 敏幸, 「学術研究の場としての大学英語教育 - 京都大学の英語カリキュラム -」 大学英語教育学会第48回全国大会, 北海学園大学, 2009年9月4日-6日

田地野 彰, 「総合研究大学の英語教育を考える」 筑波大学教養教育機構・外国語センター・FD委員会共同主催『教育に関する講演会』, 筑波大学, 2008年10月1日

田地野 彰, 寺内 一, マスワナ 紗矢子, 「専門教育との連携を目指した大学英語教育 - ESPの研究成果に基づいて -」 大学英語教育学会第47回全国大会, 早稲田大学, 2008年9月10日-13日

Tajino, Akira, Curriculum Reform at a Multi-disciplinary Research University in Japan: Towards a Linkage between EGAP and ESAP. *Educational Linguistics 2008*, フィンランド・ヘルシンキ大学, 2008年5月29日

田地野 彰, 「京都大学における英語のカリキュラム改革 - 専門教育との連携を目指して -」 第4回長崎大学 大学教育機能開発センターシンポジウム『新しい教養教育を目指して - カリキュラムから科目改革まで, 語学教育の潮流を読む - 』, 長崎大学, 2008年3月

田地野 彰, 寺内 一 「専門教育との連携を目指した大学英語教育 - ESPの研究成果に基づいて -」 京都大学高等教育研究開発推進センター開催第77回公開研究会, 京都大学, 2008年2月16日

田地野 彰, 「これからの大学英語教育を考える」 第13回大学教育研究フォーラム, 京都大学, 2007年3月28日

#### 〔図書〕(計 1 件)

田地野 彰, 「大学英語教育の展望 - 学術研究に資する英語教育の充実に向けて -」 『言語理論の展開と応用 - 西川盛雄教授退官記念論文・随筆集 - 』 (pp. 19-35.) 東京: 英宝社, 2009年3月.

〔その他〕  
報告書

田地野 彰,寺内 一,金丸 敏幸,マスワナ  
紗矢子,笹尾 洋介『英語学術論文作成のた  
めの自律学習支援システムの構築 - ESP 語彙  
リストに基づいて - 』,平成 18 年度~平成 21  
年度科学研究費補助金(基盤研究(C))成果  
報告書,2010 年 3 月.

ホームページ

<http://www15.plala.or.jp/tajinoedling/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

田地野 彰 (TAJINO AKIRA)  
京都大学・高等教育研究開発推進センタ  
ー・教授  
研究者番号: 80289264

### (2) 研究分担者

寺内 一 (TERAUCHI HAJIME)  
高千穂大学・商学部・教授  
研究者番号: 50307146  
金丸 敏幸 (KANAMARU TOSHIYUKI)  
京都大学・人間・環境学研究科・助教  
研究者番号: 70435791